

目的および方法 家政学，親子関係の実践研究における心理劇の活用のしかたの可能性を探り，その方法論的特色，問題点を明らかにする。また，心理劇の特色をいかして，親子関係の諸課題を，生活縮図的に，動態的に探究する。今回は，親子関係の転換変容の節目となる状況，親子が第三者とかかわる状況に着目し，親・子・研究者が共に参加する心理劇\*の実践例を取りあげて，上記の目的にそった分析・考察を行い，特に，親子関係の変容にかかわる第三者の役割機能の考究をすすめる。

\*サイコドラマの基礎を，創始者J.L.Morenoに学び，日本心理劇協会（会長，松村康平）の関係学に基づく心理劇の立場にたって，家政学，児童学，人間関係学の領域で行っているもの。お茶大乳幼児集団研究会，児童集団研究会，親と子の心理劇の会での実践例。

結果および考察 親子が第三者とかかわる心理劇の実践例：1) 親子が他の親子・家族と交流する心理劇（保育臨床の親グループ活動における心理劇），2) 親子が外に出向き，第三者・未知の人と出会う心理劇（同上），3) 親子が他の親子と共に，第三者“ふしぎな人”とかかわる心理劇遊び（保育臨床の合同活動・参加者の集いにおける心理劇遊び）。親子が第三者とかかわる状況においては，親子の人間関係が，二者関係的，内接的な関係から，三者関係的，多層接在的な関係へとひらかれていく過程がみられ，第三者の媒介的な役割機能が，具体的に浮き彫りになる。「間」に位置する第三者との，日常とは異なる驚きや発見を伴う豊かな人間関係体験を通して（ずれや対立の変容過程も含む），子も，親も，人の生き方の多様性に気づき，親子のかかわり方をひろげていくことになる。